제163호 1909. 7. 17.
明治四十二年七月十七日（土曜日） 第百六十三號 （一）
日刊（日曜及祭日の翌日休刊） 第三種郵便物認可

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

刺客論（上）

稲葉生

幼稚は赤衣を稱て益々好笑すべく、日韓代議士は赤衣を着て益々好笑に堪ねたり、旅順寨外血を濺らして東西これを讃歎し、京都城内碧血地を彩つて天人共に怒る「時」と「場合」、論是非斷案の基礎たり、血を流すてとを譽とすべき必要ある「時」と「場合」に於て血を流すは好し、血を流すことを譽れとするに足らざる「時」と「場合」に於て血を流すは即ち狂なり、論は男子の言なり、情に偏するを容さず、噴火山的日本民人が狂熱の社會にありては此の冷靜なる「刺客論」の如き屢々之れを復活せしむるを要す。

「刺客論」の一篇は叙論交遞にして、筆を星亨の横死に起し、刺客を以て社會の寛假すべからざる大罪人なりと論定したるものゝ例を歐米諸國に於ける晩近の事實と我國に於ける維新以後の實例とに採り罪を一種の宗教的感激と社會のこれに對する待遇法とに歸せり、論旨徹透、言また時弊に中れり矯たる哉と雖も、彼の侠を粧ふて以て强となし、徒らに悲憤慷慨する者の類、何ぞ其克く知るところにあらんや。

星亨氏の横死は、端なく刺客に關する觀念を促起せしめたり、刺客は是認す可き乎、非認すべき乎、苟も其の目的公共の利益に存するに於ては。

今日の社會は口に非認して、心に是認するものに似たり、否な多くの者は、口にさへ是認しつゝあり、苟も之を是認す、刺客の跡を世に絕たざるも亦た宜べならずや。

それ社會が全力を舉げて退治しつゝある盗賊さへ、倘ほ社會に横行するを免れず、况んや社會が之を容認するものに於てをや亦た况んや之を鼓吹するものに於てをや、歐米虚無黨社會主義の諸國に於いては、人命の貴きを以て全世界に代へ難しとする程なり。

然も刺客は決して稀有の產物にあらず、刺殺の事實は各國各時の歴史の各頁に殆んど是れなきはなし、暫らく吾人の記憶に新たなる所を舉ぐるも、露帝亞歴山第二世の如き、佛國大統領カルノ氏の如き、米國大統領リンコルン及ガルフヰルドの如きあり。墺國皇后の如きあり、一昨年に於て伊王ウムベルトの如きあり、若しそれ其の幸ひにして免かれたるもの獨逸老帝あり、昨年に於て獨逸今帝あり、英國故女皇の如き、今帝エドワルド第七世の如きも均しく其の危難を辛ふじて脱がれたりき、若しそれ露國文部大臣の如きは、昨春に於て之れが爲めに斃れ、内務大臣及び樞密院長の如きも殆んど危かりき、バルカン半島の如きは暗殺沙汰は尋常茶飯にして何人も之れを怪むものなし。

以上の事實によりて推定すれば、歐米諸國に於ける帝王大統領等の生命は文明の進歩と共に其の安全を加へざるのみならず、却て不安全の度を高からしむるが如き傾向なきにあらず、生命保險會社が彼等に就て割増を請求するも、亦謂か一理なきにあらず彼等が憂心忡々として、社會の極位に座する は實に情けなき浮世と謂ふ可し、是れ何の故ぞ彼等が無政府黨の餌食たるが爲め乎名を好む狂人共の無理情死の相手たるが爲め乎、否な或は人道の大敵と盲熱漢より目指さるゝが爲乎、嗚呼實に情けなき浮世ならずや。

俳句

●波上吟 日曜吟社

△秋近し（結、鳳月の内）

それつから庭吹く風に秋近し 四樂
蝶ひとつ風にいたみて秋近し 中庸
湯豆腐の風味れほねて秋近し 月哉
風鈴の音たかふして秋ちかし 逸名

△蜻蛉（結、垣麥の内）

蜻蛉や城垣纏ひしをに蔦に 中庸
とんぼ釣惡太もぐるや破れ垣 ○から
とんぼ追ふ子供支へし垣根哉 同
垣に咲く花にあつまる蜻蛉哉 同
垣越しにとんぼ狙ふや惡太郎 六坊
水を呑むとんぼ可笑しき姿哉 月哉
とんぼうや垣越兼し蜘蛛の網 淡水

新刊紹介

●實業之天地● 新たに生れたる雜誌なり体裁内容共に好く實業之日本に髣髴たり寄稿者は何れも知名の實業家概して賑やかに出來上り居れり（一巻一號十五錢東京牛込區納戸町實業之天地社）

●木太刀● 寫眞版なく名士の寄稿なくあつさりと出來たり種類廿有餘美文韻詞讀んで飽くを知らざらしむ（七月號二十錢東京麴町元園町木太刀社）

●歴史地理● 重要記事は「日本歴史地理會十年史」「日本に於ける歴史地理學發達路史」「駿東史蹟」なり（第十四巻第一號東京神田三省堂）

佐倉宗吾

（百卅四） 眞龍齋貞水講演



すると其翌日、下總國印旛郡佐倉の御城内へ、未明の頃ほひに○「門番—門番ッ」門番は早いから「ハイ」答へて斯う見ると、上野介兩眼果米の如く、顔蒼白に成つて、衣類は寸斷〳〵に裂かれ、顔の邊から血潮を流して居りますから番「ウヘーッ、御前樣でござるか」驚いて介抱申し上げる 殿「如何して此處へ入らせられましてござる ム、宗五郎夫妻の者が供して參つた、馬に乘つて參つた 番「馬に……… 殿「いま其處で馬を降りた、ソレッ、宗五郎夫婦が居るではないか、コレ——宗五郎大儀であるぞ 番「ウハアーッ」イヤ門番戰慄ひ上つた、夫から此事を御届を致しますと、諸役人か登つて、斯うの事、御國表の御殿へ御供申し上げたが、それからは益す御心狂はせ給ひ、如何とも仕様がない、愈よ此怪しき事が御公儀にも分りまして、御調べになると、包み切れない、御子様二人御變死になつたのみならず、御百姓のため、江戸表より國表まで曳かれて來ると云ふ事は、容易ならぬ事であると、此處で堀田上野介亂心を致し其家名相續の者これなきを以て、御親類脇坂淡路守樣へ御預けになりました、然るに此御預中に御手當の甲斐もなく、終に此脇坂家に於て御逝去になり、茲に十八萬石は、一旦六萬石を削られ、更に又流石の名家も滅亡いたしました、非道なる御取立のため宗五郎一身を犠牲に供し國政の改革を願ひ上げまして、終に磔刑となつて相果てましたが、後ち再び御取立が以前に還りましたに由つて右十八万石は全く宗五郎が無念なる所から、殿樣へ仇を致しましたのは是非もなき事でございます、然るに此堀田加賀守正盛公の御次男に、堀田筑前守と云ふ御技倆人があつた是はなか〳〵立派な御方でありまして、此の御方が十二萬石となつて、佐倉城へ御國換仰せ付けられました、そこで前の上野介樣御政治と、がらり變り宛で領分百姓は、我が子の如く思し召し、追々と撫育下さるを以て、以前に變はる御政治に、皆な有難涙を流して居りました、ゆゑ、大公儀に於ても、一旦潰れた上野介の家を筑前守の末の御子樣を以て相續いたさせ、上州宮川、上州吉井、この兩所で一萬三千石に御取立になつて、堀田豐前守と相成り、今日まで連綿として續いて居ります、即ち先頃農商務大臣を遊ばした堀田子爵閣下は、其御正統でございます、そこで佐倉城附十二萬石の堀田様は、今日に至りまして御家御繁昌でございまして、何事もございませぬ、御話は以前へ戻る、茲に宗五郎は、神に祀ると云ふ譯に參りませぬから、之を兩當御許しと云ふので、以前建てました石塔の上へ、上屋を掛ける、之を兩當御許しと云ふ、彼の邊にズッと種々石碑が並んで居る、其一番口の處へあるから、口の宮明神などと人が謂て、其當時は參詣を致しました、それを宗五郎が御直訴をして御處刑になつたから人間達で訴事の宮抔共謂ひましたが、あれは入口にあつたから、口の宮明神と稱したのであります、今日は宗吾靈神と成りまして、終に日本開闢以來義民の魁となり、身命を擲ち、多くの人を助けたりと云ふ是が即ち木内宗五郎の傳の概略でございます、長らく讀者諸君の御眼を拜借を致しましたが、定めし御覧まだるい處もございましたらう、先づ之を以て大尾と致して置きます



社長總裁の心得

京城新報

酒匂博士自殺の報傳はるや、世は知るも知らぬも同情を以て之を迎へ、博士の死を惋惜せざるものなし、而して博士が其自殺を決するに至りし徑路に就ては何人と雖も沈痛悲惜の感に打たれざるを得ず、併し余輩の見る所を以てすれば事の茲に及びたるは博士の不明博士推薦者の不明は兎に角其弊根を尋究すれば、日露戰役後に於ける經濟界の混亂と、今尚我國の官民間に磅礴せる一種の保護經濟論とに基因せずんば非ず。回顧すれば戰役後に起りし新事業及會社勃興熱は極點に達し、其結果として現はれたる諸會社の數は幾百なるを知らず、而も其大部分は所謂泡沫會社にして其事業熱の冷却すると同時に概して消へ失せたりき、然るに政府は半ば自己の便宜と、半ば國家の利益とを混同したる一種の考案より新事業及新會社に對して特に力を添へたるの觀ありき、此等を一々枚擧するに遑あらざるも先づ其著しきものを擧れば、彼の北海炭礦の製鐵業、南滿鐵道、大日本水產、大日本精糖、東洋拓殖會社等にして此等諸會社の中にて今日稍々成績の見るべきものあるは北海炭礦、南滿鐵道にして、北海炭礦には事業に熱心忠實なる井上角五郎氏あり南滿鐵道は其人を得たりと云ふにあらざるも殆ど天祐とも云ふべき滿洲大豆が歐羅巴に輸出さるゝと云ふ偶然の出來事に遭遇し爲に昨年以來頗る順潮に向ひつゝあり、然るに大日本精糖は會社重役に奸黠の徒ありて徒に政府の恩に狎れて曲事を擅にし、所謂日糖事件なる大疑獄を起すに至り、終に酒匂博士をして今日の運命に至らしめたり、[illegible]大日本水產も[illegible]社内の紛擾を[illegible]に至れり、[illegible]重役の心得が[illegible]居れるが爲也、而して此等好都合なる重役を統御する社長其人が其器に非ざるに原因する也、翻て東洋拓殖會社の現狀を見れば其運命や一歩々々前者の轍を踏まんとしつゝあるに非ずや、全體酒匂博士と云ひ、[illegible]中將と云ひ、將た前二社と近き將來に於て運命を共にすべき東洋拓殖の宇佐川中將と云ひ、其專門の道に於ては皆一廉の人物なるが、[illegible]、世間幾多の社長總裁等に向て酒匂博士、彌屋中將の覆轍に對して深く顧る所あるべきを切望するもの也

倫敦電報

▲波斯帝露國行

波斯皇帝は露國公使の保護を求め承諾せられ皇帝は露國に送らるべし之れ皇帝自ら皇位を棄てたるも同樣なりと（十六日東京經由）

路透電報

▲波斯王黨降伏

波斯國民軍テヘラン侵入激戰の結果勤王黨軍の敗に歸し終に降伏するに至りたるを以て國王は宮殿に樓塞を築造し防禦中なり

▲獨新内閣員任命

獨逸新内閣組織成り宰相ホケウエーヒ氏以下閣員三名新任されたり（十六日東京經由）

東京電報

▲外相協約伏奏

本日小村外相は宮中に參内し日韓協約其他の件を伏奏したり

▲商工事務官派遣

農商務省は清國米國、歐洲に商工事務官を派遣する事に内定したり

▲驅逐隊の派遣

從來缺け居りたる第十二驅逐艇隊は新に編成せられ馬公島港に派遣することに決定せりと

▲日韓協約の評

司法權委任に關する日韓新協約の締結を曾禰新統監をしてなさしめず伊藤公懇々渡韓して締結したる事に關し一部の有識者間には伊藤公掉尾の失敗と稱するものあり

▲日清興業會社

對清實業團は始め共利會社と稱する筈なりしも日清興業會社と名くることに決定せり

▲梅博士と司法權

既報の[illegible]梅博士は司法權委任に關する事務に就き十五日東京出發渡韓し[illegible]

▲清國海軍改革

清國海軍[illegible]に關する上奏は清國皇帝[illegible]當分消極的に改革を進む[illegible]

▲兩參事の出張

鐵道院參事小林源三[illegible]氏は韓國及南滿洲へ出[illegible]（以上十六日午後發）

雜報

●御着期變更

梨本宮殿下同妃殿下には二十一日御入京の[illegible]御入京の事に變更し御宿[illegible]御滯京遊ばさるゝ由

●奉迎勅使差遣

韓皇には[illegible]梨本宮殿下御入京に際し[illegible]らるゝ筈なりしが殿下[illegible]行なるを以て遠慮中止[illegible]げ特に尹侍從院卿を勅使として仁川に差遣せらるべし

●協約發表時期

司法權委任に關する協約は[illegible]列國に發表する[illegible]ければ本月二十[illegible]に於ける軍部廢止の件も多分月末迄は發表せられざるべしと傳ふ

●曾禰統監奉迎

梨本宮同妃兩殿下十九日仁川御着に就て曾禰統監は同日下仁川へ奉迎すべしと

●韓國武官學校廢止

北部山清洞に在る陸軍武官學校は軍部廢止の結果廢校せしめらるべしといふ

●營林廠の純益

營林廠明治四十一年度の總益金は八萬四千三百三十八圓八十四錢にして此内四萬六千四百二十六圓七十二錢は損失に屬せしを以て差引純益三万七千九百十二圓十二錢也と

●邦人小學校長會議

授業事務打合の爲め來る八月四日より同六日迄三日間京城第一小學校内に於いて第七回在韓日本人小學校長會議を開く由

●國有漁磯書類引繼

元宮内府所有たりし漁磯にして國有に移されたる分は便宜上水產局より度支部に委囑しありしが漁業法施行と共に水產局に統一する事となり十六日關係書類の授受を爲したりと

●日韓瓦斯早急計畫

日韓瓦斯電氣會社の差し當りの計畫としては龍山十五間道路に復線の新軌道を布設し從來の線路にては西大門東大門間を復線とし全線に亘り三分間每に電車を發着せしむべしといふ

●賣却人蔘の引渡

既に清商阜昌號と賣買契約を爲したる人蔘は去る十日開城第一銀行に於て引渡し濟となり其代金二十六萬七千百九十一圓二十五錢の内九万六千七百五十[illegible]圓は去る八日付にて受取濟となりたるが同日は其殘金を授受し全く取引を終了したりと云ふ

●慶尙南道農作狀況

慶尙南道の農作狀況に就て同道觀察府より農商工部へ達したる報告に依れば先般來稀有の旱魃の處十二日以來豪雨沛然として降り農民皆挿秧に着手し此處四五日内に全部植付を終了する見込なりと

●京城市中の狀況

京城に於ける商況は近時概して不振にして中元の贈物の如き昨年に比し八分位の賣行なれば殊に銀行に於ては韓人側に對し先月頃より手を引締めたる結果は直ちに一般の上に影響し韓人の金融逼迫せるに隨ひ其購買力頓に減少したる觀ありと

●釜山附近の鰯漁

本年の鰯漁は釜山の東北は甚だ面白からず豐漁の年には今頃迄には幸運の者は三千圓内外の收獲あるべきに本年は二三百圓より多きものも一千圓に上らず之れに反し釜山港の西南は割合に豐漁にして五六百圓多くは一千圓内外なるを占めたるものは二千圓程の收獲あり若し雨季終りて充分に日の照るに到らば漁況恢復すべしと

●夏季中郵便物配達

統監府通信管理局にては夏季中公衆の就眠時刻を利用し午後八時十分南大門驛着の郵便物（重に日本より來る分）を就眠時間前に配達すべき事に努むる由なるが何分多數の郵便物なれば全部配達する能はず從つて遲延せる向も有之べければ其の邊は豫め諒知ありたく尚郵便受函及び明瞭なる門標名札の設備なき向は一時も早く掲設せられたしとの事なり

一理事官會議

十六日統監府に於ける理事官會議に於て内部は日韓人共同組合の件を提出し諮問せし由なるが當日にて同會議は終了せり

●觀察使會議

十六日は朴内相閣次官各局長及び地方局員列席の上内部大臣室に於て一般地方行政に付協議したり

●漢城府民會の頌文

漢城府民會にては大要左の意味の頌文を十五日仁川に滯在せし伊藤公に贈りたる由

大日本國元老大勳位公爵伊藤博文閣下は即ち我皇太子の大師なり閣下の功德は山の如し閣下の聲望萬邦に風靡す而して其心は即ち至誠公の東洋人智開發に於ける又東洋の時局と推移し世界と共に平和の福利を共享す吾韓國民幸にして此偉人を得て吾皇太子殿下の補導と爲す安んぞ歡喜せざるを得ん冀くは閣下の長壽を保ち我皇太子の爲め東洋の爲めに盡瘁せられんことを希望の至りに堪ねず云々

●東拓貸付の遲々

東拓會社の金融部の貸付は貸付規定の認可を受けたる時より既に三四ヶ月を經過するも僅に一件の取引を了したる迄にて頗る遲々たる姿なるが當局者の語る所といふを聞くに抵當物の鑑定に多くの時日を要する事と其の證明を得るの手續に於て容易に貸付を爲すの運びに至らず其の金高の如きも證明を得て始めて決定し得ることゝなれば貸付の運ばざることも之に原因するもの也云々

●舍音排斥と利益

從來驛屯土の管轄は宮府に屬し小作料の徵收は凡て舍音の手に於て爲されたるものなれば其間に立てる舍音の役得は隨分莫大なるものなりしが近來國有地として度支部に移されたるより財務監督局は自身に於て小作料の徵收を爲し全然舍音を排斥するの方針に更めたるが今其の經過を見るに去る明治三十九年に於ては二十五萬圓の實收入が翌四十年度支部の手に移りてより五十四萬八千三圓となり四十一年は七十萬圓餘にして四十二年度の豫算は百二十七萬八千六百四十四圓なるに至りしと云ふ

●軍司令官々舍

[illegible]るを以て目下約六百坪の[illegible]約十七萬圓にして落成の[illegible]を以て統監邸を龍山に移轉するに確定せず[illegible]と日本電報通信は報せり

[illegible]にして且つ最も困難なるは其需要地に在り[illegible]は仁川附近に於ける新鮮なるものに對抗すべくもあらず殆んど其販路なき有樣にて非

●宇都宮氏の披露宴

京城通信社長宇都宮高三郎氏は今回在東京中外通信社と聯絡し相互に支部を設置し以て日韓兩國間通信の發展を計る事に協定調りたるを以て之が披露の爲め十六日午後七時より日韓新聞記者及び特派員三十余名を花月樓に招待し盛大なる披露の宴を張たり

●各地稻作狀況

各地稻作狀況左の如し

▲平澤　本年米作植付狀態は雨量少なく一般不良の傾向ありしが昨夜來降雨充分ありし爲め今後數日ならずして悉皆挿秧を了すべく最早植付上懸念なきものゝ如し

▲烏致院　當地方は近來降雨なき爲め挿秧困難漸く全部の四分位は植付を了せしが如し昨夜十二時過より降雨ありしも何れにも増加を見ず先づ移植田の爲めには好雨なれども挿秧未濟のものには餘り効力なし然れども幾分の助水となり本日挿秧を初めたるもの多少を見受く今一入りの降雨を望めり

▲尙州　當地方本年極めて雨量少く移植期は既に到來せしも未だ挿稻終了せざる向半を超過し移植を終りたるは僅に十分の三弱にして而して之等は水掛り悪しき爲め葉端黄色を呈し今後晴天尙一週を繼續せば殆んど全般枯死に至らんと農民の危懼焦燥に慘憺たるものあり而れは米價は日々騰貴の狀況なり

▲江景　當地方米作植付狀態は先月中旬以來降雨なかりし爲め約三割方植付を了らざりしが本月六日降雨ありし爲めに殆んど植付を了し餘す處僅々一割方に過ぎず然るに昨今雨近き模樣あるを以て江景平野は概して植付を了したるものと見て差支なし幸に今後天候順に赴かば相應の收獲ある見込なり

▲烏山　五月頃より本月に至る迄の雨量尠なき爲め烏山川沿岸及振威川沿岸は植付けたるも其他の山谷に散在する水田にありては只今に至るも植付出來ず農民も一般に困難の域に立至り居候始末にて是れにて當地附近の水田全面積より觀測すれば四分通りの植付出來ざる處ありて六分の植付濟と察し候併し今後四五日中に多少の降雨を見るあらば全部植付濟と相成らん

●各地昨今の暑熱

韓國各地に於ける炎熱は昨今益々甚だしく殊に暑氣も例年に比し稍や強き有樣なるが今去る十四日の韓國各地氣壓及び溫度を記すれば左の如し

地名	氣壓（午前六時）	最高	最低
京城	七六〇、三	三〇、三	二〇、四
仁川	七六〇、〇	二六、二	二〇、一
木浦	七六〇、七	二九、三	二三、三
釜山	七六二、〇	二六、九	二二、六
大邱	七六一、五	三二、四	二三、一

●釜山輕鐵開通期

既報の如く釜山鎭より東萊溫泉場に至る輕便鐵道工事は急速に進行せしむる由なるが來る十一月三日の天長節を以て開通する豫定なりと

●滑稽新聞の發展

同新聞は毎月五日十日二回の發行なりしが今後は毎月曜刊行とし尙は毎月二十日定期增刊をなすといふ

●龍山仁川間の交通

仁川會議所より[illegible]に其筋に請願したる忠清南道道路開鑿に關しては其後觀察道土木技師をして實地を踏査せしむることゝなりたるが尙は積山日本人會長出口某は右急設運動打合せのため奔走中なり

●在外指定學校の指定

開城日本人民團立尋常小學校及統營日本人會立小學校は今般在外指定學校に指定されたり

●平壤炭の輸送延期

平壤鑛業所にては平壤炭輸送販賣人を清國人某と定め昨年三萬噸の輸送を爲したるが清國の販路は兎角捗々しからざるやにて某は平壤鑛業所の手を經て農商工部に對し契約炭引取方を或る期日まで延期されたき旨出願したり

●釜山殖林許可期

釜山民團より農商工部に出願したる各地の殖林地は其後同部に於て暫々調査中にて岩南半島の分は韓人の異議多く急に纏り附かざる模樣なるが孰れにしても來春の殖林苗木植ね付け時期迄には許可するに至るべしといふ

●大邱農銀と日本人

大邱農工銀行六月末の帳尻は貸出金七万八千九百七十七圓六十四錢の内日本人への貸出高六萬千八十七圓九十六錢他は韓人への貸出なり又た同期の定期償還貸出しは三万四千四百八十七圓にしてうち日本人への貸出し二萬三千七百三十七圓他は韓人なり

●大同江埋立地追認

大同江凱旋橋附近の埋立地は目下片倉組之を經營し陸揚場としては必要の地となれるが其の管轄は無論觀察道に於て爲すべきものなるも今日まで出願の手續をせず依て今回觀察道にては地方費實施前に土地其他を整理する必要あり片倉組をして更に出願の手續をなさしめ追認することゝなりたりと

●警察官の入所式

過般内地に於て募集したる警察官八十八名と當地に於て募集したる十一名は十六日警察官練習所に入所するよし也中野警務課長より訓示する處有りと

●建築所の請負入札

度支部建築所にては西小門内京城裁判所第三號官舍の新築工事を本月十九日午後二時入札に附す由又清州財務官々舍の新築工事を同月同日正午入札に附す由なり

●咸北道隱城の粟作

咸鏡北道隱城地方にては過般來粟に害蟲發生し一時は非常に劇しく收穫も皆無とならん有樣なりしが官民共全力を注ぎ之が驅除を爲したる結果漸く減少し農民は愁眉を開きたる旨電報あり

●英學教師の結婚

典洞英語學校教師米人ブラントフ氏は十四日同國の某婦人と結婚し同日水原に向け新婚旅行となりと

●新韓民報發賣禁止

米國桑港發行の新韓民報第百三十六號は又々發賣を禁止されたり

●西本願寺追弔法會

當地長谷川町の西本願寺出張所にては今回大谷連枝の來京を機とし十七日より卅七八年役の戰死者追弔法會を營む由

●本願寺佛教靑年會

南山本願寺の同會にては十七日夕刻より依例講話あり演題は「商業と宗教」にして講演者は巌雄師なり

●龍山民團出張所移轉

京城民團役所龍山柳町出張所は十六日新市街山下町に移轉

公人私人

▲武田範六（曹洞宗韓國布教管理）十五日入京不知火
▲八木辰馬（仁川郵便局長）同山本
▲小野是郎（内部土木局水原出張所技師）同浦尾
▲内山曾一郎（同馬山出張所技師）同上
▲武田貞次郎（大邱監獄看守長）同三ヶ月
▲三浦猪次郎（水原農林學校教授）同巴城館
▲三增粂吉（馬山理事官）同京城ホテル
▲能勢辰五郎（大邱理事官）同上
▲白川正治（平壤實業新聞社長）十五日歸壤
▲坂上貞信（群山民長）同日歸群
▲大庭貫一（平壤民長）同日歸壤
▲絶多龍太郎（大阪鐵工場主）同日釜山へ
▲江村茂三郎（同場技師）同上

近事片々

▲事完　用君の辭意云々は謎る々々はそりやだんべの俚諺に同じとは抑も何の意ぞ
▲由來　辭職々々と自ら言ひ觸らす者に異の辭意なきもの也完用君此亞流との意味か
▲日韓　新協約に依り首相の位地を取留むと京童等噂す其真僞は素より知らざる也
▲軍部　廢止司法權委任の說を時犬に言觸らし人民を煽動する馬鹿者ありと厄介千萬
▲何事　かあると直に之を種に愚民を煽動するが如き奴は斷然たる處分をなすを要す
▲韓美　電氣今回の賣却により皇室に對し資金返上が當然なるも此事なしとの噂轉々
▲思は　ざる機會に遭遇して巨富を得たるコールブラン君多少の罪滅をなすが當然也
▲孫擇　鐵辭職し三ヶ年の給料三萬圓を支給さる加之鐵は既に富を積む何の言分なし
▲然る　に家屋讓渡は太皇帝より下付されたるもの抔頑張るは女に似氣なき慾張りか
▲日本　人には鑛山其他の利權にて巨富を得たる者なし獨り外人此事ある奇異の現狀
▲斯く　言へば日本人は資力少きため也と云はむ然れども在韓の外人皆富豪には非ず
▲米國　は今度新に一等巡洋艦八隻を馬尼剌に送る更に尙增遣の事ありとは事實にや
▲依是　觀之も米國が如何に東洋政策に重きを置くかを知るに足らむ刮目の價値あり
▲ル　ーズベルト氏在職當時に任用せしテキサス聯邦政府の黑人官吏を今回免職せり
▲是れ　南部白人等の反對ある爲也と新大統領タ氏が如何に調和的の人なるかを知也
▲タ氏　は輿論の爲には自說を拋つの雅量ありル氏とタ氏と其異にせる面影躍然たり
▲波斯　の首都テヘランは露軍に占領せられしとの說あり事實ならば[illegible]
▲元の　極東大守アレキシーフ[illegible]の爲に寺院を建立せんと云ふ彼に不似合の事也
▲井伊　直弼朝臣銅像除幕式に臨場の大隈伯は例により直弼の功勞を論じ雄辯を振ふ
▲此除　幕式に臨で斯る放膽なる演說をなすもの伯の外なし長閑連の感想や抑も如何

日都合により統監官邸に變更せらるゝことゝなり統監府は別に師團司令部附近に司令官々舍を新築する由にて之が工事一切は軍上は交換することに内定せるが龍山に統監部を移さば從て統監府も移轉せざるべからざる事になり斯くては執務上甚だ不便多き

●トロール漁業成績　先般來釜山近海に於て試驗中のトロール船の成績を聞くに漁獲高はトロール船としては僅少なる方到る所鯛の盛漁期なれば近海にて獲たるものは一般に歡迎せらるゝの有樣なるが若し之を京城方面に送らんとするときに於て常に損害を來しつゝありと

●配達出拂　午後八時



▲相談の相談▼
(何んでも御相談に應じ升)

◎問　京城より三十里餘離れたる田舍の知人入京中小生宅に來り曰く本日歸宅仕度候間甚だ申上兼候へ共一金四圓取替置き呉れ給へ歸着の上は至急返金可致旨願來候に付何分知人の事なれば借用證も取らず取替たる處最早二週間余となり再三催促したるも返金せず候が如何致したれば宜敷や警察に願事出來得るや借主の父より取る事出來ざるや記者閣下御相談申(一少年)

◎答　警察に願ふて說諭して貰ふ事も出來ますが借主の父に宛て催促せらるゝを穩當だと思ひます、序を以て申上るが朝鮮に於ては取る氣で貸すなら預り證でも取つてでなければ駄目です、之れは立派に店舖を持つた方や信用の程度の分明である方達は別としてゞすよ、只知つて居ると云ふ丈け位で金を貸すなぞは不用意千万です、君の將來の爲め申添へます(係)

◎問　わたしの今のていすに元いろ女がわり子がわりわたしがいや〳〵とゆうれていすのれちさんが無りにだましてふうふにした今になつて子がかわいとゆうてれやたちがわたしをだしたいとおもふてたるらしいていすわやつぱり子がかわいから元のいろ女をいれようとれもてれるよにたもわれる子をわたしの子にしてせきに入れとゆうていすのいろ女の子を子にするのわいやうれならでろとゆうでるとゆねばりよひをくれないぜしたらよござろか相談します(明治町女)

◎答　夫れはあなたの邪推でしよう亭主の元の色女に出來た子だとてあなたの子にして籍に入れて終へばあなたの位地が固くなる、過ぎた時の嫉妬を今持ち出して何うなります、モット碎けて氣を大きく持になさい、出るといふのに金を呉れないのが御亭主さんがあなたが可愛い證據です、然うなさいよ(係)

●未勘金の整理
▲各大臣の大恐慌

韓國政府は去る四月五日を以て未勘金整理に關する法律を發布し開國五百三年以降隆熙元年に至る十一箇年間に生じたる國庫金缺逋の整理を爲しつゝあるが缺逋額金は合計三百餘萬圓にして、缺逋者は三千餘人の多數に達せる由而して度支部司税局は官金私消の罪跡明白なる者より漸次檢擧しつゝあるが其結果現大臣中にも二三名の缺逋者ある事を發見し其他大小の官吏續々として檢擧に逢ひ既に納入の誓約書を提出したるもの百餘名ある由なるが此の金額三十萬圓以上に達したりと尚缺逋金徵收に關しては國稅徵收法の規定を準用し政府に於て缺逋金を定め缺逋者に通知しもし之に不服ある者は其通知を受けたる日より三十日以內に政府に對し再審査を申請する事を得と之に對しては臨時國稅未勘金整理委員會の決議を經て決定を爲し申請者に通知する規定あるも各大臣等は舊惡の世間に曝露せん事を恐れ不服の申請を爲すもの未だ一名もなしと因て欠逋金を一時に納入する事能はざる者に對しては八ケ年以內の期間に於て延期或は分納を許可する事を得せしめ若し納入せざる者には財産に對し直に滯納處分を執行すべしと

●一日に轢死二名
▲一人は邦人一人は姙婦

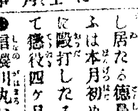
仁川署管內素砂驛を北方に去る五丁六鎖の鐵道線に去十四日邦人男の轢死せるもの橫臥し居れりと同地駐在所に報告せるものありたれば警官出張檢死をなしたるが右男は年頃二十六七にして頭部より頭首に掛けて轢かれ居れば顏の相好は判明せざれど風体より考ふれば多分生計に窮して覺悟の自殺を遂げたるものらしゝと云ふ▲今一件は同日終列車にて梧柳洞より北方に去る一哩三十鎖の所にて三十五六の韓婦人頭部及び手首を切斷せられ無慘の轢死を遂げたるを其の翌日附近の者が發見し派出所に屆け出でたれば警官出張檢死をなしたるに右韓女は姙娠七ケ月とも見る腹を抱へて無慘にも伏臥して死し居り傷を受けたる處より見れば線路通行の際後方より列車の來りしを知らず氣が付きたる咄嗟頭部が機關車に觸れ手首を轢かれたるものならんと因に同韓女も住所姓名共に不詳なれば附近の原野に埋葬したりと

●戀しき峰子さん　旭町二丁目某旅館附近に左の如き落し文ありたりとて態々送り屆けたる人あり何處の自然主義者かは知らね其男の名は歐文にてエム、ケーとありたれば性はキの字の頭で名はマの字の頭なれば木內とか菊池とか又政とか松とか云ふなるべく假名遣の誤りを見れば東北人らしく女は峯子さんに相違なし

アー私の親愛なる峯子さんよ、今日は約束通り是非南山の方へ話しをおはしかた〳〵散歩に行きましようねー、少しは散歩でもして氣を落付けなけりや馬鹿になりますよ、私も毎日家にばかり居るど面白くなくてこまるですよ、實は私ねー一度あなたとゆかへに散歩したくて毎日思つて居るですよ是非共今日は行きましようね、二時位遊んできましようね、そしてね、出る時はこなへだの樣に私は十分位先き出ますから後すぐにあの手紙の事を云つて來なさへよ、ほんとに賴ますよ

あー親愛なる峯子さんへ　エム、ケー生

●不良なる少年　佐賀縣神崎郡神崎町一丁目三百七番地當時龍山旭橋通菓子商庄三郎三男小淵吉次(十五)は鄉里にて高等小學校第三學年迄通學し其後渡韓して父母の許にて菓子行商を爲し居りしも掛賣り滯みしかば父母に叱られるを虞り本月九日一圓卅錢位の餅と外に鑵瓶一個洋傘一本とを持ち出したる儘自宅に歸らず一昨夜若草町一丁目百十七番戶の空家に臥寢し居りしを家主の爲め發見されて南部署に突出さる



紳士の遊興振
▲兒玉秀雄君

君は故藤園先生の息にして赤門出身の法學士で卒業後父君とは方角違ひの大藏省に入つて國家財政經濟の事務に鞅掌しつゝありしが統監府の設置せらるゝや君擢でられて同府の書記官となり金山君沒後は同府會計の事務を管掌し以て今日に至つた、統監府中には立法、行政の智識に富む人は頗る多いが財政の事に通曉せる者は君の右に出づる人は殆んど無いと云ふて宜い、君が每議會に統監府の豫算を提げて陣頭に立つのも全く是れが爲めである、さて斯く敍すれば藤園先生後ありと云ふべきだが翻つて君の遊興振を一檢すれば是は又不肖の兒と云ふべく成程酒も呑み交際なれば樓上の人ともなるが惜むらくは未だ端唄一つ否サノサ節一つを本當に唄ふ事は出來ぬ尤も何んとか云ふラッパ節を興に乘じてやる事もあるが其れも口の內でブツ〳〵云ふ位でとても物になりそうもない只君が瓢逸洒落にして伯爵を轎に掛けず座興に面白き輕口を續出するを以て藝妓も仲居も●スベルの御前〳〵と持て囃すそうだ此分で行けば伯爵の家庭は先づ太平無事と判じて差支へあるまい……(投書歡迎)

次は大島專藏君

●石炭船の沈沒　仁川吉貴組艀船第八十一號船は再昨日目下同港に碇泊中なる麗陽丸より石炭數十屯を移積し仁川驛に揚陸せんとする途中午後五時頃風波の爲め澪筋に押し流され終に沖合ひに擱坐したるより船員は必死となりて石炭の移積に努めたるも遂に沈沒したりと

●キ印巡査を煩す　仁川敷島町派出所に一昨日午後三時頃小林庄三郎(六三)と自稱する老翁出頭し自分は步行自由ならざる上に自分の息子松山由太郎の家が判からぬとの申し立てが異樣とも見ねずチヨツコンキ印の點あれど松山との姓は虛僞にはあらざるべしとて宮町、京町各派出所に電話を掛け漸やくにして由太郎が新町二丁目に居住し居ること判明したれば直に召喚し狂人に近き老人を單獨にて外出せしむるは頗る危險なりと懇々說諭を加へて引取らしめりと

●園遊會を當込む　仁川署三刑事は再昨廿日日本公園に於ける伊藤公の送別園遊會の雜踏を當て込み掏摸の入り込み來るものあらんと互に手配をなし巡邏し居るとも知らず石川縣石川郡神倉石町錢谷庄吉(四十)と自稱するもの及び長崎市西仲町田中正一(廿六)と自稱する惡漢公園地通りを徘徊し居たれば有無を云はさず引致し先づ拘留に處し目下嚴重なる取調べをなし居れるが兩人共犯罪の見込み充分なりと云ふ

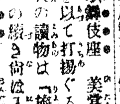
●毆打犯の懲役　仁川濱町中津屋に下宿し居たる德島縣生れの前川富次郎(二十)と云ふは本月初め同宿人に金を借せと強迫し遂に毆打したる廉に由り數日前仁川理事廳にて懲役四ケ月に處せられたり

●信濃川丸に忘物　去る十三日仁川に入港せる信濃川丸にゴム長靴一足遺留しありたるが心當りの者は南部警察署に屆出可と

●無許可で氷を賣る　明治町二丁目飲食店橋本米吉は其筋の許可なくして六月三日以來氷及びラムネを販賣せし爲め各科料金三十錢に處せらる

●迷子の保護　南山町三丁目岡田宇吉の長女あき(六つ)は一昨十五日午後零時三十分知人に連れられ其宅に至りしに歸途を失して迷ひ居たるを新町交番所巡査が保護を加へて送屆く

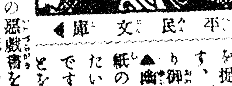
●神來畫伯の展覽會　畫伯天草神來氏は目下漢江の畔り風光明媚の境に自適して得意の妙筆を揮ひつゝあるが明十八日龍山和歌の家に於て之れが展覽會を催す筈なりと



▲歌舞伎座　美當一調は明日を以て打揚ぐる筈なるが同人の讀物は「旅順口總攻擊」の續き尙ほ入場料は五十錢均一なりと▲永樂亭　は本日が千秋樂なるが讀物は前日の續きなり▲愛澤一座は一昨夜乘込みたるが初日は來る廿日なりと▲壽座は愈三層造りに取掛かる

家庭料理

▲鯛の蓼押　蓼の葉を摘み取り硬き筋を去つて水にて洗ひ布巾に包みて水氣を斷り爼上に取り成るべく細かに刻み鯛は三枚におろし腹骨を去り皮を剝き縱に三ツに切り骨拔きにて小骨を拔き斜に薄く切り手早く兩面に鹽をふりかけ暫く經つてからざつと水にて洗ひ布巾にて水氣を好く拭ひ深き皿か又は丼に前の蓼を敷きその上に鯛の肉を一層列べにし手早く其上に蓼をふりかける又其上に鯛を重ねて蓼をふりかけ壓蓋をなしその上部に壓石をして三十分ほど經つてから細かに切つて小皿に盛り別に醬油を添へて供す



◀平民文庫▶

▲原天原先生に告ぐ、好題目を捉へて御寄稿を希望致します、過日の御投稿は都合に依り御預り申置きます(其係り)▲幽蘭女史が今後の方針を貴紙の「相談の相談」で伺つて見たいと申して居りましたそうです(又聞生)▲マー殊勝いてとな(小僧)▲敎師「此の黑板へ軍艦の惡戲書をしたのは誰です」一級幾十人の小學生は默して水を打つたる如く一人も自白するものなし　敎師「併し中々能く畫いてある、點數にすれば百點は確かだ」一生徒突如として手を擧げ「先生、夫れは僕です」(兒童研究生)▲或る所の御主人樣へ雇人の成績が惡いとて頭からケナシては服從しませぬ、ソウ云ふ時は「成る程に前の仕た事は好いが」と煽てゝ置き「併しコウしたら猶ほ好い」と云つて諭覽なさい其の方が餘程利目がありますよ(長谷川町人)▲投書家の懇親會を開き玉へ僕も一升提げて行くよ(八五郞)▲本町通りの商店の窓飾を評せば靑々園の小奇麗なる氣に叶つた辻屋は一趣考あるべきなり靑木堂と明治屋は窓の小なるを惜む龜屋の本支店は佳併し彼れ丈けの窓を有することなれば更に名案の餘地充分あり日韓書房は可森安は一番發丸京は變化なく古臭し四丁目町田の分店飾付は見込みあり辻屋支店、三越、圓城、梅垣の諸店は一層の勉强を望む妄評多謝(有趣味生)▲此の種の投書を歡迎します、各商店主及店員諸君の參考となるべしと思ひます(係)▲壽町二丁目の中島醫院の隣りの若い御夫婦さんよ早朝からいさくさは廢しなさい、夫れも交情が好いから起るのです、出るの退くのと何んですね一貴方がたにも似合はないよ(心配生)▲人を叱るには親切の心を以てすべし憎惡の念を以てすべからず同情を以てすべし嫉視の意を以てすべからず(紅)▲胸に生ねて居る毛は鮮さ云へますか大方諸君子の敎示を乞ふ(南山生)▲ウンニャ其樣質問が一番れつかねね(係)▲小僧何うだ迂潤にやわ口が利けねねだ(小僧)▲仁川の淺岡で桝菊後に小三と云つた姐さんが此の頃花月に來てゐるが中々藝が上手で座敷が巧妙である(八五郞)



天氣豫報(自十六日午後六時至十七日午後六時)
南西の風晴後曇

十五日(華氏)　最高溫度　八六、七　最低溫度　七四、八

●給仕入用　年齡二十歲以下にして身元保證人ある者數名採用す志望者は本人直接至急來社あれ
京城新報社